



**42<sup>nd</sup>** World Scout Conference  
Conférence Mondiale du Scoutisme  
**14<sup>th</sup>** World Scout Youth Forum  
Forum des Jeunes du Scoutisme Mondial  
2021



**10<sup>th</sup>** Asia-Pacific Regional  
Scout Youth Forum  
09-10 & 12-13 February 2022

第14回世界スカウトユースフォーラム  
第10回アジア太平洋地域ユースフォーラム

# 日本派遣団による提言

Ver. 01

最終更新: 2022年3月31日

# はじめに

- 私たち、第14回世界スカウトユースフォーラム日本派遣団(以下「14WSYF派遣団」)、及び第10回APRスカウトユースフォーラム日本派遣団(以下「10APRSYF派遣団」)は、それぞれ参加したスカウトユースフォーラムでの経験を踏まえ、日本のスカウティングに対して提言を行います。
- 本提言は、14WSYF派遣団が策定した提言案に対し、10APRSYF派遣団が修正案を加えることによって策定された共同提言文です。
- 7つのカテゴリごとに個別の項目を設定し、それぞれ「スカウト」、「成人」、「RCJ」および「日本連盟」に対して提言をしています。これら四者が協力して提言に取り組むことによって、理想とする状態の実現を目指します。
- 本提言は、隊活動から全国の活動や組織運営のあらゆるレベルにおいて適用されることを想定しています。
- 提言文中、特に指定のない場合、「スカウト」はビーバースカウトからローバースカウトまでの全部門のスカウトを指します。
- 提言文中の「成人」は、原則としてスカウト運動に関わるすべての成人(Adults in Scouting)を指します。
- 本提言は、RCJや日本連盟との協議を経て内容を修正し、また公開後も実際の運用の実態等を加味して定期的に評価・更新されるものとします。

# 更新記録

- 2022/03/31 Ver.01を公開。

# 本提言の構成

| A. 青年参画とリーダーシップ  | B. 国際性の強化      | C. 教育法と新時代のスカウティング | D. ダイバシティ&インクルージョン    | E. 社会的影響と外部連携  | F. ガバナンスとコミュニケーション   |
|------------------|----------------|--------------------|-----------------------|----------------|----------------------|
| 青年参画の理解促進        | 国際性の強化         | 教育法の柔軟性            | ダイバシティ&インクルージョンの理解・認知 | 社会的影響の認識と実践    | (ローバー部門における)登録制度の見直し |
| 多様な選択肢の提示        | 国際プログラムの充実化    | 連続性の強化             | イコールアクセス              | 社会に開かれたスカウティング | RCJの組織基盤の強化          |
| 対等な立場での議論        | 国際動向の把握と国内への適用 | ローバー部門教育プログラムの見直し  | ジェンダーイコリティ            | ローバーから社会へ      | 国際フォーラム派遣団との連携強化     |
| RCJの意思決定要素の強化    | 他国連盟との繋がり      | 教育のDX化推進           | 性的マイノリティへの配慮          | 野外活動の価値向上      | スカウトと成人間の連携          |
| 世界レベルの意思決定への青年参画 | 国内外国人スカウトの支援   | SDGsの推進            | 障がい者スカウトの支援           | 防災・減災・災害復興支援   | メンタルヘルス              |
| リーダーシップスキルの開発    |                | Earth Tribeの推進     |                       | 地域活性化への貢献      | セーフフロムハーム            |
| ユースリーダーの登用       |                | 信仰教育の見直し           |                       | 団体等との連携        | 相談窓口の開設              |
|                  |                |                    |                       | 官公庁や企業とのコラボ    |                      |



# A. 青年参画とリーダーシップ

スカウティングは、よく「青少年のための教育運動」と表現されます。しかし、「ための」とは、決してスカウトが成人から一方的に教育を受けるだけの受け身の姿勢を示しているものではありません。スカウトには、成人によってサポートされた環境の中で、自発的に自分たちの活動に参画することが期待されているのです。それ故に、スカウトが自分たちに影響のある意思決定に参画することは、当然のことであると言えます。スカウティングにおいて青年参画が進むことは、スカウトがイノベーションを起こすことにも繋がります、それはこの運動、ひいては社会全体の活性化にも貢献します。

スカウトにリーダーシップスキルを身に付けさせることも、スカウティングの重要な使命です。アクティブシティズンが求められている現代社会において、若者のリーダーシップスキルを養う上で、スカウティングは多くのチャンスをスカウトに与えることができます。

スカウティングにおける青年参画とリーダーシップスキル開発のためには、スカウトと成人による世代間対話を促進し、スカウトと成人が対等な立場で議論のできる環境を構築することが必要です。

# A-1 青年参画の理解促進

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 理想 | すべてのスカウトおよび成人が青年参画の意義と重要性を理解する。 |
|----|---------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                     |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 自分たちがスカウティングにおける「主人公」であり、それゆえにスカウティングにおける青年参画は重要だということを認識する。<br>ボーイスカウト講習会や各種研修プログラム等に参加し、スカウト教育法における青年参画の内容について知る。 |
| 成人   | <a href="#">Youth Involvement Policy</a> に目を通し、青年参画の意義について知るとともに、隊活動等を通じて、スカウトに青年参画を働きかける。                          |
| RCJ  | 国内のローバースカウト向けに、イベントや情報の提供を通じて青年参画の重要性を広めることに加え、実際にその機会を与えるための施策を展開する。                                               |
| 日本連盟 | 国内のスカウトと成人を対象に、青年参画の重要性をより理解してもらうための施策を展開する。                                                                        |

## 《背景・課題認識・解説等》

そもそも「青年参画」が何であり、なぜそれが重要なのかを知ってもらうことが必要。「青少年のための教育団体」なのだから、青年の意見が取り入れられるのは当然。

## A-2 多様な選択肢の提示

理 想      スカウトにあらゆる選択肢が提示され、本人の自由意思による行動が尊重される。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                              |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 単に与えられたことに取り組むのではなく、自身の成長につながるものを選ぶための軸を持ちつつ、多様な選択肢の中から自身の意思に基づいて行動する。                                                       |
| 成人   | 何がスカウトの成長にとってより良いものになるか考え、スカウトに自由な選択の機会を与える(とりわけ、ローバースカウトに対しては指導者としての役割以外の選択肢も提示する)。                                         |
| RCJ  | 国内のスカウトを対象に、ローバースカウトの活動モデルを提示し、ローバー年代の多様な活動のあり方を示す。                                                                          |
| 日本連盟 | スカウトと成人がともにローバー部門の教育のあり方を理解することのできるプログラム(単なるローバー過程研修所・実修所の復活に限定されない)につき、ローバースカウトの声を取り入れながら検討し実施する。C-3「ローバー部門教育プログラムの見直し」と共通) |

### 《背景・課題認識・解説等》

成人の「とりわけ、ローバースカウトに対しては指導者としての役割以外の選択肢も提示する」の部分がこの提言を行う上で背景として持っていた問題意識です。これまでに意見を聞いてきたスカウトから、「ローバースカウトは指導者だけやればよい」という方針の成人が未だに一定数いるとの声がありました。私たちは、カヌーを漕ぐスカウトに多様な可能性を示し、本人が自分でカヌーを漕いでいくのを見守ることが、成人の役目であると考えます。

# A-3 対等な立場での議論

理想      スカウトと成人が対等な立場で対話・議論できる。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 年齢に関係なく、成人と積極的に対話・議論をして意思表示をする。                                                                                                  |
| 成人   | 「 <a href="#">Roger Hartのはしご</a> 」を参考に自身のコミュニティにおける青年参画を評価する。<br>スカウトと成人が対等な立場で対話・議論する機会を積極的かつ継続的に設け、議論の際はスカウトによる意見には誠意を持って対応する。 |
| RCJ  | 情報提供等を通じて、スカウトと成人が対等な立場で議論できるように支援を行う。                                                                                           |
| 日本連盟 | スカウトに影響のある決定を行う際に、スカウトと成人が対等な立場で議論を行う場を設け、スカウトの意見を成人のものと同様に尊重する。<br>スカウトと成人が対等な立場で議論を行えるように、成人指導者に教育、意識付けを行う。                    |

## 《背景・課題認識・解説等》

教育運動ゆえの権力関係(「教える側:成人>教わる側:スカウト」という構図)は、時として重要な意味を持つと考えます。しかし、何もかもこの構図を当てはめるとすれば、青年参画を推進することは困難です。スカウトの年齢や適性、事案の性質などを考慮し、スカウトの声を取り入れるべき場面においては、成人にはスカウトと対等な立場に立ち、スカウトの意見を尊重することが求められます。もちろん、スカウトもそのような成人との議論の場面から逃げるのではなく、自分たちの考えをしっかりと伝え、成人に納得してもらえよう努力することが必要です。



# A-4 RCJの意思決定要素の強化

理 想 RCJが青年の意思決定機関として実質的に機能する。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | RCJや地域コミュニティなどを活用して、同年代の意思決定の機会に積極的に参加する。                                                                        |
| 成人   | RCJや地域コミュニティなど、青年による意思決定の場とそこでの決定を尊重し、適宜スカウトに対して情報の提供や働きかけを行う。                                                   |
| RCJ  | RCJ総会が青年による意思決定の機会として機能するように、出席者に対して事前の情報提供及び決議事項のありかたを改善する。<br>RCJが国内のローバースカウトによる意思決定機関として認定してもらうよう、日本連盟に働きかける。 |
| 日本連盟 | RCJを青年による全国規模の意思決定機関として認定し、青年に関わる重要事項の決定に際してはRCJの決定を尊重する。                                                        |

## 《背景・課題認識・解説等》

RCJって、全国のスカウトの代表が集まるすごい組織。年回の総会には全国の県代表が集まる意思決定の機会がある。でも、現状運営委員が用意した方針案を見せられて、わけも分からず賛成に票を入ってる県代表も結構いるはず。せっかくの青年による意思決定の場なんだから、ちゃんと機能させないともったいないよね。

# A-5 世界レベルの意思決定への青年参画

理想 世界レベルの意思決定に、国内のスカウトの意見がしっかりと反映される。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                                                                                                      |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 世界レベルの意思決定について関心を持ち、自身のスカウティングとの関連性や影響について考える。<br>あらゆることに問題意識を持ち、他のスカウトと積極的に議論して意見を交えるとともに、集団としての意思決定における交渉等の手法を知る。(共通)<br>議論した内容を、さらに高次の意思決定の場にあげ、異なる価値観や背景を持つ相手との議論を通じて、より大きな集団における意思決定のプロセスを経験する。 |
| 成人   | 世界レベルの青年による意思決定について常に最新の動向を把握し、必要に応じてスカウトへの指導法や働きかけを見直す。<br>スカウトに、自身の課題意識や意見を表明させる文化を醸成し、議論のための環境を積極的に構築する(教育法共通)                                                                                    |
| RCJ  | 世界レベルの意思決定イベントに参加する青年代表者を、全国のローバースカウトの総意によって選出するための仕組みを検討し、運用する。<br>RCJフォーラムやローバーフォーラムの機会をこれまで以上に設け、スカウト同士の議論の機会を保障する。                                                                               |
| 日本連盟 | スカウトが、自分たちに関わる問題について議論できる場を積極的に設けると同時に、成人に対しても、そのような環境の構築を働きかける。(教育法と共通)<br>国際フォーラム派遣団と国際会議派遣団及び日本連盟同士の情報や意見の交換が十分に行えるよう仕組みを整える。(ガバナンスと共通)                                                           |

## 《背景・課題認識・解説等》

青年が世界の仲間と意見交換、意思決定できる国際フォーラム。毎回選ばれたスカウトは「さあやるぞ！」って意気込んでいくけど、そのスカウトたちって本当に日本の全スカウトの意見を反映してるの？日本代表として意思決定に参加するなら、その選ばれ方や意見交換の方法をちゃんと考えないとね。

# A-6 リーダーシップスキルの開発

理 想     スカウトのリーダーシップ能力の開発が広く受け入れられる。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 社会においてリーダーシップを発揮することの大切さを認識し、指導者や県連盟等に対してリーダーシップ能力開発の機会構築を要望する。                                                    |
| 成人   | スカウトにリーダーシップ能力開発のための機会を十分に提供すること。                                                                                  |
| RCJ  | ユースがリーダーシップスキルを身に付けられるような施策を展開する（日本版「リーダーシップトレーニングプログラム」など）。<br>今ある県代表やブロック代表などの仕組みを生かして、よりリーダーシップを発揮できるような施策を講じる。 |
| 日本連盟 | 意思決定プロセスへのユースの積極的な登用にむけ、トレーニング等を通じて支援を行う。<br>スカウトがリーダーシップスキルを身に着けられるように、成人に対して必要な教育及び情報提供を行う。                      |

## 《背景・課題認識・解説等》

社会に出ると、いろんな場面でリーダーシップを発揮する機会があるけど、いざリーダー役をやろうとしても、経験がないとなかなかみんなをまとめられないよね。スカウティングには、班長、デンコーチ、議長、県代表とかリーダーシップスキルを磨けそうな場面がたくさん。これらを積極的に利用して、スカウトのリーダーシップスキルをますます高めよう。リーダーシップってリーダーでなくても必要だし、それもスカウティングを通じて培えるもの。

# A-7 ユースリーダーの育成

理 想 青年がスカウティングのあらゆるレベルでリーダーシップを発揮する。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                        |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | リーダーシップは年齢に関係なく発揮して良いということを知り、成人やRCJ、日本連盟が設けるリーダーシップスキルを高められる機会を積極的に活用する。                              |
| 成人   | 青年がリーダーシップを発揮すべき機会においては、青年をリーダー役に登用し、その行動を尊重する。                                                        |
| RCJ  | 日本連盟に対して、各種意思決定機関への青年の登用を働きかける。                                                                        |
| 日本連盟 | 各種委員会、またはイベントや事業等のリーダーポストに、青年を積極的に登用する。<br>国内のローバースカウト関連ポスト(ローバー担当コミッショナー等)に、ローバースカウトまたは20歳以下の指導者を充てる。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

スカウトがリーダーシップスキルを身につけたら、実際にリーダー役になってもらおう。これまで大人がやってた役職をスカウトがやってもいいじゃない。失敗しても、みんなサポートしてあげるのがチームだよ。そうやってスカウトたちはリーダーシップスキルをさらに磨いていくんじゃないかな。



## B. 国際性の強化

スカウティングは世界最大規模の青少年のための運動です。その構成員は5700万人を超え、異なる背景や文化を持った仲間が世界中に存在しています。国際的なイベントやプログラムが世界各国で様々な形態によって開催されており、スカウトはこれを通じて国際感覚を磨く機会を与えられています。また、近隣国や友好国同士で交流プログラムなども展開されています。しかし、日本における国際プログラムはまだまだ限定的です。デジタルツールが進化し、国際交流がますます容易になっている今こそ、日本のスカウティングの国際性を強化することが期待されます。

# B-1 国際性の強化

理 想 国内のスカウティングのあらゆる場面で国際性の強化が推進される。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | スカウティングが世界最大規模の青少年運動であり、全世界に同世代の仲間がいるということを認識する。<br>国内に限らず、グローバルな視点を持ち、世界的に生じている課題に対してスカウトとして何ができるのか考える。              |
| 成人   | スカウティングにおける国際性の意義を理解し、スカウトが国際感覚を養うことのできる活動環境を提供する。                                                                    |
| RCJ  | 運営委員もしくはタスクチーム等に国際担当職を設けるなど、国際性の強化をRCJの主力事業に位置づけるよう努力する。                                                              |
| 日本連盟 | スカウトの全年代において、国際感覚を養うことのできる教育法、環境を提供する。<br>スカウト個人、団、代表団レベルで誰もが日本のスカウティングを海外スカウトに紹介できるようにするため、英語の日本連盟動画を作成、または動画の公募を行う。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

RCJとして国際性の強化は大切だけど、個人的に運営委員には国内のことに注力してほしいので、主力事業に位置付けまではしなくても良いとも思う。（北村）

他NSOに向けたPR動画（日本のスカウティングや日本文化）があると良い。他国との交流の際に見せる用。他の国は結構やっているイメージ。

## B-2 国際プログラムの充実化

|     |                           |
|-----|---------------------------|
| 理 想 | 活動における国際交流や異文化理解の機会が増加する。 |
|-----|---------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                          |
|------|----------------------------------------------------------|
| スカウト | 隊や団、地区の活動で国際プログラムを提案し、積極的に企画や運営に関わる。                     |
| 成人   | 隊活動等で国際性を養うためのプログラム(とりわけ外国人スカウトとの交流プログラム)を組み込み、継続的に展開する。 |
| RCJ  | CJK(バングラデシュ公益事業)を始めとする国際プログラムを企画し、定例行事として年間事業に組み込む。      |
| 日本連盟 | スカウトや成人(団や都道府県連盟)RCJが取り組む国際プログラムを支援する。                   |

### 《背景・課題認識・解説等》

CJKプロジェクトとは台湾、韓国、日本のローバースカウトがバングラデシュで合同で行うプロジェクト。

## B-3 国際動向の把握と国内への適用

理 想 国内のスカウティングのあらゆる場面で国際性の強化が推進される。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                      |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | WOSMや日本連盟が発信する情報に触れ、国際的な動向に照らして日本のスカウティングを客観的に評価する。                                                                  |
| 成人   | グローバルレベルで問題(地球環境・メンタルヘルス)となっていることや青少年が関心(青年参画)を持っていることをインプットし、それらの活動を行えるような環境整備を行う。                                  |
| RCJ  | RCJ Webなどを活用して、地球市民の説明や国際関係の情報を発信する。報告書など、国際レベルの活動にアクセスしやすくする。                                                       |
| 日本連盟 | WOSM、世界スカウト会議、世界スカウト委員会・APR委員会等の動向が、国内のスカウト及び成人指導者にいち早く共有される仕組みをつくる。他国連盟の取り組み・施策を調査し、評価できるものは国内向けへのプログラムとして積極的に展開する。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

国際的なことをボーイスカウト関係者全体で知っていったら、国内のスカウティングについて客観視、そして向上につながれたら良いよね



## B-4 他国連盟との繋がり

|     |                              |
|-----|------------------------------|
| 理 想 | 他国連盟との繋がりが強化され、国際プログラムが増加する。 |
|-----|------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                          |
|------|----------------------------------------------------------|
| スカウト | ジャンボリーなどで知り合った海外のスカウトと継続的に連絡を取り合い、定期的に交流や意見交換を行う。        |
| 成人   | 他の外国連盟や団とのパートナーシップを締結するなど、スカウトの国際交流促進のための基盤を構築する。        |
| RCJ  | 外国連盟（他国ユースコミュニティ）との連携を通じて、スカウトの国境を超えた交流が促進されるような施策を展開する。 |
| 日本連盟 | 外国連盟との結びつきを密にし、スカウト同士の交流の機会を増やす。                         |

### 《背景・課題認識・解説等》

日本は他の加盟国と比べ、海外との交流が少ない印象。  
もっと気軽に交流していきたい。

# B-5 国内外外国人スカウトの支援

理 想 国内の外国人スカウトの活動が適切に支援される。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 国内で活動する外国人スカウトと積極的に交流し、お互いの文化や価値観を交換する。<br>自身の活動するエリアに活動を希望する外国人スカウトがいる場合は、参加を呼びかけともに活動を行う。                      |
| 成人   | 団や地区で協力し、当該エリアで活動する外国人スカウトのための支援を検討、実施する。<br>団のホームページを英語版対応にするなど、活動を希望する外国人スカウト向けに受け入れ体制を整える。                    |
| RCJ  | 地域ローバーや大学ローバーと連携し、全国の外国人スカウトが活動に参加しやすい環境の構築に取り組む。                                                                |
| 日本連盟 | 日本国内にいる外国スカウトの活動ニーズを把握し、活動に参加するハードルを下げるための施策を実施する。<br>外国人スカウト受け入れ対応を一本化(日連窓口対応サイト→現状なさそう)し、受け入れ地域の団支援・地区支援を展開する。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

日本にも外国出身のスカウトはいるので、積極的に取り込んでいきたい。

# C. 教育法と新時代のスカウティング

スカウト教育法は、創始者ベーデン・パウエル卿の教えを尊重しつつも、その内容を時代の変化に応じて柔軟に更新するべきです。予測不可能(VUCA)な時代だからこそ、既存の教育法に満足するのではなく、変容し続ける必要があります。また、昨今新型コロナウイルス感染拡大によりスカウト活動が制限され、スカウティングの在り方が変わりつつあります。ポストコロナ時代にも適用できる新しいスカウティングを検討していくことが重要です。加えて、青少年が地域やデジタルの格差なく、平等にスカウティングに参加できる仕組みづくりが必要不可欠です。

# C-1 教育法の柔軟性

理 想 教育法が柔軟にアップデートされ、時代や社会状況に即した教育をスカウトが享受できる。

## 《各対象への提言》

|      |                                                        |
|------|--------------------------------------------------------|
| スカウト | スカウティングと、学校での教育、普段の生活との相違点を考える。                        |
| 成人   | 研修プログラム等で基本的なスカウト教育法を学ぶと同時に、現代の教育にとって必要だと思うことを考え、提案する。 |
| RCJ  | ローバースカウトを中心に、現行の教育法に改善点がないか、議論する場を設ける。                 |
| 日本連盟 | 指導者やスカウトの声を取り入れる。                                      |

## 《背景・課題認識・解説等》

スカウティングは、ノンフォーマル教育ゆえの柔軟性があるはず。変わりゆく時代の変化に対応できるようにすることで、現代社会の抱える課題に取り組むことのできる人材を育ててほしい。



## C-2 連続性の強化

理 想 部門間の連続が強化され、上進時のギャップが解消される。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                        |
|------|------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 上進前から次の部門で取り組みたいことのイメージを持っておくと同時に、後輩スカウトに対して上進後の活動の様子について共有する。         |
| 成人   | 部門間の連携を密にし、次部門での活動を見据えた教育を施すとともに、スカウトが上進時に大きなギャップを感じないように支援を行う。        |
| RCJ  | ローバー活動のイメージを持てるように、ベンチャー以下の部門のスカウトに対しても、イベントやプロジェクトを通じてローバーの活動を発信する。   |
| 日本連盟 | ハンドブックの記載や研修プログラムの内容を見直すなど、部門間、とりわけベンチャー部門とローバー部門のギャップを解消するための方策を検討する。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

ローバー上進前後で退団者が出るのは、ベンチャーの段階でローバーの活動をイメージできてないからでは？

# C-3 ローバー部門教育プログラムの見直し

理 想      ローバー部門における教育プログラムが改善される。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                    |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | ローバー部門においてどのような教育・支援が必要か考え、同世代のスカウトや成人との対話を通じて、現状の教育プログラムの改善点を提案する。                                |
| 成人   | ローバースカウトの教育について、団や地区のローバースカウトと対話する機会を設け、それを踏まえて自身の教育のあり方を評価し改善する。                                  |
| RCJ  | ローバー部門における「教育」とは何かについて、全国のローバースカウトで議論する機会を設け、その結果を日本連盟及び各都道府県連盟の指導者に共有する。                          |
| 日本連盟 | スカウトと成人がともにローバー部門の教育のあり方を理解することのできるプログラム(単なるローバー過程研修所・実修所の復活に限定されない)につき、ローバースカウトの声を取り入れながら検討し実施する。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

昔ローバー隊指導者向け講習があったらしいので、それを隔年開催でもオンラインでも復活させるべき。(ローバー部門には「指導者」はいらないとの考えは間違っていないと思うが、だからといってローバーになった瞬間、「あとは全部自分たちでやってね」は無茶だと思う。指導者にもローバー部門について理解してもらわないと、ローバーへの関わり方にばらつきが出るなど教育の効果が均質でなくなる。)

# C-4 教育のDX化推進

理 想 デジタル時代にふさわしいスカウト教育法が展開される。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                                                 |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | デジタル・ネイティブの視点から現状のスカウト教育の非効率的な点を見つけ、改善策を提案する。                                                                                                   |
| 成人   | 団や地区、都道府県連盟等における業務のうちDXにより効率化できるものがないか調査改善し、成功事例を他の団や連盟等に共有する。                                                                                  |
| RCJ  | 各種事業や組織運営において積極的DXを推進し、全国的な運用の参考になるようなロールモデルを作る。<br>全国のローバースカウトに対し、デジタルツールを用いた活動や交流の手法を紹介する。                                                    |
| 日本連盟 | 各種進級科目や研修プログラムをラーニングで受講可能にするなど、スカウト及び成人の学びの利便性を高める。<br>ポータルシステムなどによって各加盟員の情報を一元管理し、本人も閲覧や更新が可能なように整備を行う。<br>事務作業のDXを推進し、全国の都道府県連盟や団にもその手法を共有する。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

教育もだけど、事務関連のほうが大きいのかも。ガバナンスじゃね？

# C-5 SDGsの推進

理 想 SDGsが広く認識され、普段の活動や日常生活で積極的に取り入れられる。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                     |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 「持続可能な開発目標 (SDGs)」について調べ、 <a href="#">Scouts for SDGs</a> のページを参考にしながら、普段の活動で取り組みそうなプロジェクトを企画・実行する。 |
| 成人   | 「持続可能な開発目標 (SDGs)」の意味と内容について理解を深め、隊活動やスカウトの教育の場面にどのように適用できるか検討し、実践する。                               |
| RCJ  | 各事業や組織運営においてSDGsの開発目標を積極的に取り入れると同時に、スカウトがSDGsに取り組む上で有用な情報を提供する。                                     |
| 日本連盟 | 各事業や組織運営においてSDGsの開発目標を積極的に取り入れると同時に、Scouts for SDGsのコンテンツをアップデートし、スカウトおよび成人によるSDGsへの取り組みを支援・促進する。   |

## 《背景・課題認識・解説等》

もっと浸透してほしい。



# C-6 Earth Tribeの推進

理 想 Earth Tribeがスカウトおよび成人に広く認知され、活動で積極的に取り入れられる。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                  |
|------|------------------------------------------------------------------|
| スカウト | Earth Tribeについて調べ、自身の生活やスカウト活動の中でearth Tribeに取り組めることがないか考え、実行する。 |
| 成人   | Earth Tribeの意義について理解し、隊プログラムの策定や進級等の文脈で積極的に活用する。                 |
| RCJ  | Earth Tribeの意味や、国内外の取り組みを紹介するなど、全国のローバースカウト向けに理解や実践を促す。          |
| 日本連盟 | Earth Tribe実施支援。他団体や企業からの協賛や共同実施等を検討する。                          |

## 《背景・課題認識・解説等》

環境への取組はボーイスカウトならではの活動の一つ。もっと浸透させてスカウトと成人の意識を高めたい。

## C-7 信仰教育の見直し

理 想 信仰がスカウティングにおいて適切に位置づけられつつも、それぞれのスカウトの価値観や思想が十分に尊重される。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                 |
|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 様々な宗教についての客観的な知識を得たうえで自らの宗教観と向き合い、それがスカウティングにおいていかなる形で反映されるべきかについて自分なりの考えを持つ。                                   |
| 成人   | スカウトの、ひいては現代の若者の多様な宗教観を十分に尊重し、なんらかの宗教の信仰を強制することなく教育を行う。ただし、ここでの信仰の自由には、「信仰しない自由」をも含むことに留意する。                    |
| RCJ  | スカウティングと宗教の関わりを現代の実情に即したものとアップデートするため、スカウト同士が自らの宗教感を忌憚なく共有することのできる議論の場を提供し、得られた知見を日本連盟へ提供する。                    |
| 日本連盟 | 一定数のスカウトが「信仰しない自由」を有していることも考慮に入れ、スカウトの進級等において不平等が生じないように、現行の制度を評価・改善する。その際、現代の若者の宗教観や、近年の各国連盟の動きなどを考慮することが望ましい。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

BP's will  
事実上の強制になってる  
目的が違ってきている

# D-1 ダイバシティ&インクルージョンの理解・認知

|    |                                                     |
|----|-----------------------------------------------------|
| 理想 | ダイバーシティー&インクルージョンがスカウティングに関わる全ての人の生活内でスタンダードとなっている。 |
|----|-----------------------------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                   |
|------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | ダイバーシティ&インクルージョン(D&I)の意味について理解し、身の回りの事例を考える。<br>スカウト皆仲間であることを認識し、普段からダイバシティ&インクルージョンを意識して活動に取り組む。 |
| 成人   | ダイバーシティー&インクルージョンに関して理解を深め、留意した運営を行う。                                                             |
| RCJ  | D&Iを浸透させる。なぜ重要なのか。スカウティング内外で⇒ダイバーシティー&インクルージョンの啓蒙活動を行う。                                           |
| 日本連盟 | ダイバーシティー&インクルージョンの啓蒙を行い、全てのスカウティング関係者へ学ぶ機会を提供する。                                                  |

## 《背景・課題認識・解説等》

ダイバシティ&インクルージョンの概念は、日本においても多くの企業等で推進されていますが、ボーイスカウトではまだまだ考え方自体も浸透していない印象があります。ダイバシティ&インクルージョンを推進することは、多様な背景や価値観が反映されることで、正しい意思決定やイノベーション創出にもつながるとされています。

## D-2 イコールアクセス

|    |                                           |
|----|-------------------------------------------|
| 理想 | スカウト・指導者がともに公平で平等に学び・成長できるスカウティング環境を整備する。 |
|----|-------------------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                               |
|------|---------------------------------------------------------------|
| スカウト | スカウティングにおけるイコールアクセスの意味を理解し、自分の周りでアクセスの障害となっている要因を調べ、解決策を検討する。 |
| 成人   | 性別、性的指向、国籍、障害の有無等の理由でスカウトを差別、またはスカウティングへのアクセスを妨害しない。          |
| RCJ  | スカウティングの様々な形(国内外問わず)を紹介することで、ダイバーシティー&インクルージョンの啓蒙へ繋げる。        |
| 日本連盟 | スカウトが、性別、性的指向、障害の有無、国籍・・・等に関わらず、等しくスカウト活動に参加できるような仕組みを構築する。   |

### 《背景・課題認識・解説等》

教育機関である以上、スカウトには皆同じ質の教育を提供しなければならない。形式的な平等ではなく、実質的な平等？そのへんは議論ありそうだけど、考え方としてはみんな共有してほしい。



## D-3 ジェンダーイコリティ

**理想** すべてのスカウトおよび成人が、活動の機会や組織における役割等において性別の違いによって差別を受けない。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                           |
|------|---------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 普段の活動において、性別による差別と区別の例をそれぞれ挙げ、そのうち差別を解消するためにはどのような行動に出ればいいのか仲間や成人と話し合う。   |
| 成人   | 自身のスカウトや他の成人に対する接し方や、隊や団、組織の仕組みにおいてジェンダー平等の障害となっている要素を洗い出し、改善する。          |
| RCJ  | スカウト活動におけるジェンダーについて考えるためのイベントやキャンペーンを実施する。                                |
| 日本連盟 | ジェンダー共同参画特別委員会を筆頭に、スカウト活動のあらゆるレベルにおけるジェンダー平等が推進されるようスカウト、成人および関係機関に呼びかける。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

言わずもがな。考えは浸透してると思うけど、実態はもうちょっとかな。アンコンシャス・バイアスにも注意。ジェンダーギャップ指数の日本のランク20位(2021年)  
[https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2021/202105/202105\\_05.html](https://www.gender.go.jp/public/kyodosankaku/2021/202105/202105_05.html)。

## D-4 性的マイノリティへの配慮

|    |                                                      |
|----|------------------------------------------------------|
| 理想 | 性的マイノリティのスカウトが周囲の理解と配慮によって心理的な安全性が保たれた環境でスカウティングを行う。 |
|----|------------------------------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 全てのスカウトがシスジェンダー（異性愛者であり、かつ身体的性と性自認が一致している人）というわけではなく、他にも様々な性自認や性的指向を持つスカウトがいるという多様性を理解し、そのようなスカウトに配慮した行動を取る。 |
| 成人   | 宿泊や更衣をはじめ、性的マイノリティに属するスカウトがいる可能性を考慮したスカウティングの支援を行う。<br>性的マイノリティについてスカウトが学ぶ機会を設ける。                            |
| RCJ  | RCJでプログラムやイベントを行う際に性的マイノリティのスカウトがいることも配慮した計画を行う。                                                             |
| 日本連盟 | 性的マイノリティに関連した配慮について、成人指導者に向けた指針の提示やプログラム作成時の留意事項として追加する。                                                     |

### 《背景・課題認識・解説等》

これも社会的には浸透してきつつあると思うけど、スカウト活動内ではあまり考えられてこなかった？

# D-5 障がい者スカウトの支援

|    |                                                     |
|----|-----------------------------------------------------|
| 理想 | 障害を持つスカウトが、適切な支援を受けながら、他のスカウトと同様にスカウティングの教育効果を享受する。 |
|----|-----------------------------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                         |
|------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 誰にでも「できること」と「できないこと」があるのだということを認識し、仲間の「できないこと」に対して自分が「できること」がないか考え、行動に起こす。<br>アグーナリーの参加条件を調べ、障がい者スカウトと交流できる機会に積極的に参加する。 |
| 成人   | 「発達障がいのある青少年を支援する指導者のガイドブック」等を参考にしながら、障がいの有無を理由に接し方を変えるのではなく、それぞれのスカウトの個性を認識し、一人ひとりに合わせた指導・支援ができるように努める。                |
| RCJ  | スカウト向けに提供する情報やイベントのプログラムなどにおいて、障がいを持つスカウトにとって理解や参加の障壁になっている要素がないか評価し、ある場合に可能な限り障壁が小さくなるような配慮を行う。                        |
| 日本連盟 | アグナリーなど、障がいを持つスカウトでも参加できるイベントやプログラムを継続的に提供する。<br>スカウトや成人向けの配布物やホームページなどの情報媒体において、ユニバーサルデザインを積極的に採用する。                   |

## 《背景・課題認識・解説等》

障害者支援の取り組みはこれまでしてきたけど、無意識のうちに差別しちゃってないか。そもそも障害の有無は一概にいけないのだから、個性を大事にしてその人にあった教育をするという方向に使用。障害者基本法でも、障害者が社会のあらゆる活動に関与する権利を有することが定められている。

## E. 社会的影響と外部連携

スカウティングは、社会との結びつきなくしては成立しない活動です。それゆえに、スカウト活動は常に社会に対してどのような影響を与えうるのか考えながら行われる必要があります。影響の与え方は、スカウト個人、地域団、日本全体など様々なレベルがあり得ますが、それらすべてが「より良き社会の実現」に関わっていることは間違いありません。もちろん、スカウトを社会で活躍する人材に育てることも、社会に影響を与えるスカウティングの重要な役目の一つです。社会的影響は、他の団体や官民と連携することで相乗効果を生むこともあります。スカウティングの強みを活かしつつ、あらゆる手段をもって社会によい影響を与えていくことが期待されています。



# E-1 社会的影響の認識と実践

理想 スカウティングの社会への影響力が組織内部で認識され、構成員がこれを生かした活動に取り組む。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                      |
|------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | スカウティングが社会に与えている／与える影響について調査し、そのために自分がどのように関わることができるのか考える。<br>プロジェクト企画の際に、その活動がどの程度社会に影響を与えるのかを考慮する。 |
| 成人   | スカウティングの社会的影響力について認識し、普段の活動やスカウトの教育によってどのような影響を社会にもたらすことができるのか考える。                                   |
| RCJ  | 全国のスカウトに対し、社会的影響のある活動事例を紹介すると同時にRCJが取り組む事業の社会的影響についても評価し、必要に応じて改善する。                                 |
| 日本連盟 | スカウティングが社会に与える影響について、スカウトや成人に対して意識付けを行い、運動全体の社会との結びつきを強化する。                                          |

## 《背景・課題認識・解説等》

creating a better worldで社会を良くするのもボーイスカウト。まずはローバーがその活動の柔軟性を活かして対外的に良い影響があるプロジェクトをしても良いし、それをRCJで推し進めるのも良い。ローバースカウトがスカウト部門の手本になれば。

## E-2 社会に開かれたスカウティング

**理想** スカウティングの提供する価値が、組織と加盟員の内部だけにとどまらず、社会全体に広く開かれた状態になる。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | スカウティングで身につけた知識や技術を、社会生活の中で活かすとしたら、どのようにすべきか考え、仲間や成人と話し合う。                                 |
| 成人   | スカウトが、活動で得た知識や技術を日常生活でも活かすことのできるようなプログラムを実施する。<br>スカウトフェスティバルなど、一般の方にスカウト運動を知ってもらえる機会を増やす。 |
| RCJ  | ソーシャルメディアやオンラインツールを活用して、スカウティングをより多くの人に体験してもらう方法を検討し、実践する。                                 |
| 日本連盟 | 現状加盟員のみが享受できる恩恵のうち、一般に開放することで社会的に影響を与えうるものを検討し、可能であれば実践する。                                 |

### 《背景・課題認識・解説等》

内輪で活動しすぎ。だから「何やってるか分からない団体」とか言われるんや！（まあ、制服着てみんなで歌ってたら「なんやアイツら、こわ！」って思われてもしゃないかもな）

## E-3 ローバーから社会へ

|    |                             |
|----|-----------------------------|
| 理想 | ローバースカウトが、卒業後をイメージしながら活動する。 |
|----|-----------------------------|

### 《各対象への提言》

|               |                                                           |
|---------------|-----------------------------------------------------------|
| スカウト          | 自身の活動が社会に出た際にどのように活かすことができるのかイメージし、将来の具体的なプランを考え仲間と語り合う。  |
| 成人            | スカウトの活動が、社会に出た後にも役立つように支援を行う。                             |
| RCJ           | 実際に社会で活躍しているスカウトOB・OGについて調べ、ローバースカウトとのつながりを維持する。          |
| 日本連盟<br>スカシャカ | 社会人として、どのようにスカウティングを活かすことができるのかについて、スカウト向けにいくつかのモデルを紹介する。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

ローバーのうちから卒業後のイメージを持ってもらえれば、活動の質も上がるだろうし、辞める人も少なくなるかもね。

## E-4 野外活動の価値向上

|    |                                         |
|----|-----------------------------------------|
| 理想 | 野外活動の面白さや大切さが再認識され、スカウティングの内外にその価値が広まる。 |
|----|-----------------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                           |
|------|-----------------------------------------------------------|
| スカウト | 野外活動の魅力を一般の人々に伝える方法を考え、成人の支援のもと実際に活動を企画し、実施する。            |
| 成人   | 隊のキャンプに一般の方を招待するなど、スカウティングでしか体験できない野外活動の魅力を伝える。           |
| RCJ  | 野外活動の面白さを若者世代に知ってもらうためのコンテンツを考え、各種インターネットメディア等を通じて広く共有する。 |
| 日本連盟 | スカウティングなりの野外活動の魅力を再定義し、一般の人々の興味を引きそうなコンテンツやプログラムを提供する。    |

### 《背景・課題認識・解説等》

コロナでアウトドア需要高まるとし、メンタルヘルス対策にもいい。



# E-5 防災・減災・災害復興支援

理想      スカウティングが、防災・減災および災害からの復興支援に役立てられる。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                                                          |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | スカウティングで得た技術や知識が、防災や減災の観点からどのように活かすことができるか考え、実際に社会に対してアウトプットする。<br>災害にあった地域の人々がどのような困難を抱えているのか調査し、スカウトとしてできる範囲で復興支援に継続的に取り組む。                            |
| 成人   | 「全国防災キャラバン」や独自の防災・減災のためのプログラムの実施を通じて、スカウトと一般の人々がともに災害への備えをすることができるように支援を行う。<br>日本連盟が提供する災害復興状況の情報等をもとに、スカウトのニーズと能力に応じた最適な復興支援のあり方を助言し、支援を行う。             |
| RCJ  | 全国のスカウトが取り組んでいる防災・減災運動をホームページ等を通じて共有し、他のスカウトの参考になるような情報を提供する。<br>ローバースカウト年代が取り組むことのできる復興支援活動をまとめ、必要に応じて全国のスカウトおよび成人に情報提供を行う。                             |
| 日本連盟 | 「全国防災キャラバン」を始めとした、スカウティングの知識や技術を一般の人々に共有し、防災・減災に役立ててもらうための取り組みを、継続的かつ様々な機会を利用して提供する。<br>災害復興支援団体との提携等を通じて、全国の災害復興の状況を把握し、スカウティングとして貢献できる局面では積極的に手を差し伸べる。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

他の国は貧困とか環境問題に取り組んでるけど、日本も日本で社会問題がないかと言ったらそうでもない。例えば、地震とか災害は他の国に比べて多3月16日も東日本を中心に地震がありましたね)から、ここにもっと積極的にアプローチできたらいい。防災キャラバンとかあるけど、防災キャラバンがあるから参加するんじゃないくて、こういう目的があるから〇〇をする、みたいに主体的に動ければさらに良い。

## E-6 地域活性化への貢献

|    |                           |
|----|---------------------------|
| 理想 | スカウティングを通じて、全国の地域が活性化される。 |
|----|---------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                  |
|------|----------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 自分の住んでいる地域の魅力と、抱えている課題を把握し、地域を盛り上げるためにスカウトとして何ができそうか考え、隊員や成人に提案する。               |
| 成人   | スカウトの提案をもとに、地方公共団体や地域の活性化に取り組む各種PO・NGO等と連携し、地域活性化のための具体的なアクションをスカウトとともに起こす。      |
| RCJ  | 全国のスカウトが取り組んでいる地域活性化の動きをホームページ等を通じて共有し、同様の課題を抱えている他の地域のスカウトのロールモデルになるような情報を提供する。 |
| 日本連盟 | 地域活性化に取り組む団や地区に対して、連携可能な団体や他地域の取り組みの様子を紹介するなどして支援を行う。                            |

### 《背景・課題認識・解説等》

ボーイスカウトとして積極的に地域に還元できたらいいね

## E-7 団体等との連携

|    |                                                    |
|----|----------------------------------------------------|
| 理想 | 他の青少年団体やNPO・NGO等との連携を強化し、それぞれが強みを活かして社会全体に利益をもたらす。 |
|----|----------------------------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                                       |
|------|-----------------------------------------------------------------------|
| スカウト | ボーイスカウトのような青少年団体に他にどのようなものがあるか調べ、それぞれの目指す理想や特徴をまとめる。                  |
| 成人   | ボーイスカウト以外の青少年団体について知り、地域レベルで共同して行える活動がないかスカウトの意見をもとに考え、実施する。          |
| RCJ  | 他団体のローバースカウト年代との情報・意見交換の機会を設け、継続的な連携基盤を構築する。                          |
| 日本連盟 | 他の青少年団体等と組織レベルの意見交換の場を設け、共通課題の達成におけるボーイスカウトの役割を再認識すると同時に、有機的な協力関係を築く。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

Big 6(世界的な青少年団体:ボーイスカウト、ガールスカウトYMCA、YMCA同盟、国際赤十字連盟、エディンバラ公国際賞財団)をはじめ、他の団体と連携したらもっとプロジェクトもムーブメントも影響力持たせられるよね

## E-8 官公庁や企業とのコラボレーション

**理想** 国・地方公共団体や民間企業と積極的に連携し、社会のあらゆる文脈でスカウティングが信頼・評価される。

### 《各対象への提言》

|      |                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 一つの社会問題を取り上げ、それに対して国・地方公共団体、民間企業およびボーイスカウトのような公益法人がどのように関係しあっているのか調べ、まとめる。 |
| 成人   | 地方公共団体や地元の企業等と協力し、スカウトが社会課題に取り組むことのできる環境や機会を構築する。                          |
| RCJ  | 大学やベンチャー企業等、ローバースカウト年代との関わりが深い団体や企業とのコラボレーションを検討し、実現に向けて努力する。              |
| 日本連盟 | 「ワクワク自然体験あそび」等の事業を積極的に誘致し、スカウティングが公的・私的のあらゆる文脈に浸透するよう推進する。                 |

### 《背景・課題認識・解説等》

今少ない。スカウト自身がこのようなアプローチできるとプロジェクトの質も上がるし、スカウト自身の成長につながると思う。



# F. ガバナンスとコミュニケーション

スカウティングのような大規模な運動において、ガバナンスのあり方は重要です。大きな組織故に体制の変更は容易ではありませんが、時として、抜本的な改革が求められることもあります。また、大きな組織であるからこそ、縦横の風通しを良くし、円滑なコミュニケーションを可能にすることが大切です。

# F-1（ローバー部門における）登録制度の見直し

|    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 理想 | 登録制度が、スカウトや成人の活動様式に即したものに改善される。 |
|----|---------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                            |
|------|----------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 現状の登録制度の課題について同世代のスカウトと話し合い、成人RCJに対して提案を行う。                                |
| 成人   | スカウトや成人から示された登録制度の改善点を日本連盟に対して提案する。                                        |
| RCJ  | 全国の地域ローバーコミュニティや大学ローバーコミュニティとともに、より良いローバースカウト部門の登録制度のあり方について検討し、日本連盟に提案する。 |
| 日本連盟 | 現場のスカウトや成人へのヒアリング等を通じて、現行の登録制度の課題を調査し、改善する。                                |

## 《背景・課題認識・解説等》

日本のスカウト運動は、それぞれの地域に根ざして発展してきました。そのため、各地位の団をベースにした現行の登録制度は合理的であると言えます。一方で、都市部への人口流入による地方の過疎化の影響で、都市と地方においてスカウティングの教育効果に差が生じているのも事実です。また、ローバースカウト部門においては、進学や就職を機に居住地を変えることも多いため、所属団変更手続きの煩雑さや移転先で活動環境を見つけられないなどの理由から、スカウト活動から離れてしまうといった問題もあります。

# F-2 RCJの組織基盤の強化

|    |                                        |
|----|----------------------------------------|
| 理想 | RCJの地位が確立され、ローバースカウトのための実効的な組織として機能する。 |
|----|----------------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                    |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | RCJについて知り、自分の地区や地域(都道府県地方)の青年代表に必要であれば意見をあげる                                                                       |
| 成人   | 地区/地域/RCJ主催の活動に参加できるように支援する                                                                                        |
| RCJ  | 日本連盟に対し、RCJの地位の確立を働きかける。<br>RCJ構成員に対して定期的に国内スカウティングに関するアンケートを実施し、ローバースカウトの声を直接拾う機会を創出する。また、同一の質問を問うことで三カ年計画の成果を測る。 |
| 日本連盟 | RCJを教育規程に明記し、ローバースカウトによる意思決定機関として認定する。                                                                             |

## 《背景・課題認識・解説等》

RCJは、全国のローバースカウトによる意思決定および情報提供のための組織として、設立以来様々な施策を展開してきました。しかしRCJは未だ日本連盟教育規程にも公式の機関として記載されておらず、その意思決定の効力は限定的なものに留まっています。さらにRCJの組織内部においても、県代表やブロック代表によって業務や責任に偏りがあり、組織として十分に機能していない局面もあります。

## F-3 国際フォーラム派遣団との連携強化

|    |                               |
|----|-------------------------------|
| 理想 | 国際フォーラム派遣団と各種関係機関の連携がスムーズになる。 |
|----|-------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------|
| スカウト | 国際フォーラム派遣団の動向に注目し、派遣団に対して情報提供や意見表明を求める上RCJを活用する。             |
| 成人   | 国際フォーラム派遣団による主張や提案が、国際会議派遣団の決定や日本連盟の事業等にどのように反映されているかチェックする。 |
| RCJ  | RCJと国際フォーラム派遣団のコミュニケーションを密にし、情報や意見の交換が円滑に行えるよう仕組みを整える。       |
| 日本連盟 | 国際フォーラム派遣団と国際会議派遣団及び日本連盟同士の情報や意見の交換が十分に行えるよう仕組みを整える。         |

### 《背景・課題認識・解説等》

国際イベント以外も



# F-4 スカウトと成人間の連携

|    |                                                  |
|----|--------------------------------------------------|
| 理想 | 共通の課題や問題意識について、地域や立場の隔たりを超えた横断的なプロジェクトが企画、実施される。 |
|----|--------------------------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                   |
|------|-------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 自身が抱いている課題認識や問題意識を全国のスカウトや成人と共有し、共同プロジェクトの企画、実施に関与する。             |
| 成人   | スカウトや自身が抱いている課題と同様の認識を持つ人々と繋がり、地域や立場の異なる者同士で共同プロジェクトを企画、実施する。     |
| RCJ  | 全国のスカウトや成人が課題の共有や意見交換、プロジェクト実施をすることができるようなプラットフォームを日本連盟と協力して実装する。 |
| 日本連盟 | 全国のスカウトや成人が課題の共有や意見交換、プロジェクト実施をすることができるようなプラットフォームをRCJと協力して実装する。  |

## 《背景・課題認識・解説等》

青年のリーダーシップにもつながる。

# F-5 メンタルヘルス

|    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 理想 | スカウト及び成人のメンタルヘルス(心の健康)が保たれた活動が展開される。 |
|----|--------------------------------------|

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                        |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | 自身が普段の活動の中で精神的に不健康だと感じる場面を挙げ、仲間や成人と話し合う。                                               |
| 成人   | メンタルヘルスの重要性を認識し、スカウトおよび他の成人が精神的に健康な状態で活動できる環境を築く。                                      |
| RCJ  | ローバースカウト年代に固有のメンタルヘルスを害する要素を洗い出し、その対策を全国のローバースカウトに共有する。                                |
| 日本連盟 | メンタルヘルス相談窓口やカウンセラーを設けるなど、スカウトや成人が活動中に感じる精神的負担と、そこから生じる健康被害が少しでも解消されるような制度や手法を検討し、導入する。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

メンタルヘルスは世界でも注目されていること。海外スカウトから直接日本はメンタルヘルスが担保されていないイメージがあるんだけど、大丈夫？と聞かれた。スカウティング関係に責任を持って取り組むことは大切だが、スカウトも指導者も自身の生活や精神を削らない範囲にしてみたい。個人にとって持続可能なスカウティングじゃないとスカウティングこれからも続かない。

# F-6 セーフ・フロム・ハーム

**理想** 安全で健全なスカウティングを享受できるよう、スカウト・指導者・日本連盟が一体となりセーフ・フロム・ハームの教育を推進する。

## 《各対象への提言》

|      |                                                                                                  |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | セーフ・フロム・ハームの被害を受けた際の具体的な対処法及び手順を理解する。                                                            |
| 成人   | セーフ・フロム・ハームの登録前研修を毎年行い、スカウトに対して積極的に教育を行う。                                                        |
| RCJ  | ローバー年代がセーフ・フロム・ハームに関する実践法や考えを交換できる場を設ける。                                                         |
| 日本連盟 | スカウトに向けたセーフ・フロム・ハームの教育を推進する。<br>スカウトが精神的・肉体的被害を受けた際の具体的な対処法を周知し、各部門のスカウトが被害に遭った場合正しい手順を踏めるようにする。 |

## 《背景・課題認識・解説等》

セーフ・フロム・ハームのeラーニングを受けることは義務になったものの、ローバー部門以下のスカウト自身のセーフ・フロム・ハームへの意識がまだ追いついていないのかもしれない。(良い行いをすることは意識するかもしれないが、被害を与えることをしないというのはあまり聞かない。)他の人に精神的・肉体的な被害を与えないことはもちろんのこと、自分自身が被害を受けた際にどのような対処をすべきなのかを明確化しておきたい。例えばオーストラリアではスカウトにユースカードを配布しており、被害を受けた際にはスカウトがイエローカードを提示するというシステムがある。<https://scouts.nz/child-youth-safety/>

## F-7 相談窓口の開設

|    |                                                     |
|----|-----------------------------------------------------|
| 理想 | 一定のパーソナルペースが守られ、全てのスカウティング関係者が悩みや課題を解消する機会を持つ運動になる。 |
|----|-----------------------------------------------------|

### 《各対象への提言》

|      |                                                                                                                                            |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| スカウト | セーフ・フロム・ハーム通報相談窓口の存在を認知する。                                                                                                                 |
| 成人   | カウンセリング等への窓口にスカウトがアクセスできるように導線を確保する。                                                                                                       |
| RCJ  | 課題や障壁に個別対応できる仕組み作りへの支援と、実装時の告知・認知向上を行う。                                                                                                    |
| 日本連盟 | すべてのスカウト及び成人指導者に対して、それぞれが抱える課題や障壁に対して個別に対応する仕組み（カウンセリングなど）を設ける。<br>スカウトの心理的負担を和らげるため、既存の「セーフ・フロム・ハーム通報相談窓口」の前段階的な相談窓口としてリスニングイヤー等の仕組みを設ける。 |

### 《背景・課題認識・解説等》

上記のように、被害を受けた際の対処の一つとして相談窓口を設けること、更にそれをスカウトたちに広く周知することが一つの解決策となる。リスニングイヤーは心理カウンセラーとは違い、被害者の声に耳を傾け「聴く」ことが主な目的となる。そのため、セーフフロムハームの相談窓口は心理的ハードルが高い場合もリスニングイヤー等の窓口を設置することで広く対応できると考える。